

| | | | |
|-------------|---|-----------|------------|
| 番号 | 交付金事業名 | 事業主体名 | |
| 7 | 「原子力防災・危機管理」教育研究推進事業 | 福井県(福井大学) | |
| 事業実施場所 | 福井大学附属国際原子力工学研究所(敦賀市鉄輪町) | | |
| 事業の概要 | <p>福井大学附属国際原子力工学研究所の「原子力防災・危機管理部門」における放射線計測・防護領域に関する講座において実施する教育研究事業に対して助成を行うことで、研究の推進や放射線計測・防護の人材育成を支援し、県民の安心につなげる。</p> <p>(事業内容) 福井大学附属国際原子力工学研究所の「原子力防災・危機管理部門」における放射線計測・防護領域の講座において実施する教育研究事業にかかる経費を補助する。</p> <p>主な研究・事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線量把握・緊急時線量モニタ開発研究 ・低線量被ばくにおける生体反応の研究 ・新しい個人線量評価手法の研究 ・教育・知識普及活動 | | |
| 事業に要した経費(円) | 15,654,424 | 交付金充当額(円) | 12,160,000 |
| 事業の成果及び評価 | <p>(成果目標) 一般向けセミナーの聴講者数320名を達成(平成28年度)</p> <p>(成果および評価) 一般向けセミナーの聴講者数は930名と目標を超え、地域住民等に原子力防災と放射線に関する知識を広く普及することができた。</p> <p><5年間の成果および評価> 個人被ばくの評価・予測に関する研究を十分に推進することができ、地域住民等に原子力防災と放射線に関する知識を広く普及することができた。各事業内容についての具体的な成果は以下のとおり。</p> <p>①線量把握・緊急時線量モニタ開発研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上での測定データ閲覧システムの整備 ・双方向情報伝達について、机上・実地訓練を実施 ・修士(1名)、学士(1名)、海外研修修了生(8名)を輩出 ・実際の運用を勘案し、行政・消防・警察と連携 → 放射線計測のプロを育てられる環境を構築 | | |

- ②低線量被ばくにおける生体反応の研究
 - ・細胞大量処理に向けた、自動コロニーカウンターを開発。
従来法と比較して実験に要する時間を約50分の1に低減できることを示した(細胞大量処理を実現)。
 - ・放射線影響研究の主流であるDNAや細胞の解析を高速かつ系統的に追跡する装置を開発。
 - ・防護基準の根拠となる疫学調査につなぐ、新しい放射線影響研究基盤を構築。
- ③新しい個人線量評価手法の研究
 - ・蛍光修飾したオリゴヌクレオチドを用いた評価法について、低線量域において本手法が線量評価に適用できる可能性があることを示した。
 - ・放射線影響研究に、DNAを模擬した新しいツールをもたらすこととなり、線量計への応用可能性検討により、これまでにない新しい評価の可能性を拓いた。
 - ・外国研究機関との共同研究を開始。
- ④教育・知識普及活動
 - ・福井大学内における関係カリキュラムの整備、自治体防災関係者と地域住民への定常的な知識普及の実施、自治体防災関係者等との連携基盤の確立。
 - ・福井大学附属国際原子力工学研究所の環境を求める他機関と共同研究を実施するまで発展。
 - ・福井大学内カリキュラムを超えた学びの場である「異分野横断セミナー」は、学生・大学院生に加え、県職員、敦賀市職員、アジアからの研究生等が相互に学ぶ場へと発展。

事業の実施に伴い締結された売買、貸借、請負その他の契約

| | 契約の目的 | 契約の方法 | 契約の相手方 | 契約金額(円) |
|-------------------------------------|---------------------|-------|------------|------------|
| | 「原子力防災・危機管理」教育研究の推進 | 補助 | 国立大学法人福井大学 | 15,654,424 |
| 成果及び評価に係る第三者機関の活用の有無 | 無 | | | |
| 本事業に来年度以降も交付金を充当させる場合の本事業に係る基本的な考え方 | — | | | |
| 事業の成果の再評価を行う場合の予定年度 | — | | | |